

更級への旅

明治の合併、更級村誕生の直前

更級村初代村長の塚田小右衛門(雅丈)さんが、古来、詩歌に詠まれてきた姨捨山は冠着山であること、を世に訴えた論文があります。タイトルは「実の姨捨山」。明治二十二年(一八八九)に地元信濃毎日新聞に掲載して掲載されたとは聞いていたのですが、ようやくその記事を見ることができました。長野県立図書館が導入した信毎のデータベース検索システムでコピーも手に入れることができました(写真)。

▽姨捨山だった長楽寺
当時の信毎は全四六、各ページ四段で構成され、「実の姨捨山」は四百字詰め原稿用紙換算で約八枚と長い投稿だったので、三月九日、前編と後編に分け、それぞれ三ページの中で掲載されました。写真は九日の紙面です。二十日ほどの四月から明治政府の市町村合併政策にしたがって全国的に近代的な自治体が発立するのですが、三月の時点では当地はまだ羽尾、須坂、若宮の三村が並立していました。

ただ、そのときにはすでに雅丈さんが主導して三村が一緒になった後の新しい村の名前を「更級村」とすることを決めていました(シリーズB参照)。「実の姨捨山」は冠着山の歴史をちゃんと明らかにすることによって、当地の存在を世間に知らしめるという村おこしも狙ったものでした。今では冠着山の別名が姨捨山であることに異論を唱える人はそんなにいないと思いますが、明治の初めまで姨捨山といえ、世の中の人には巨岩の姨岩の鎮座するお隣の八幡村(現千曲市八幡地区)の長楽寺一帯だと思われていました。

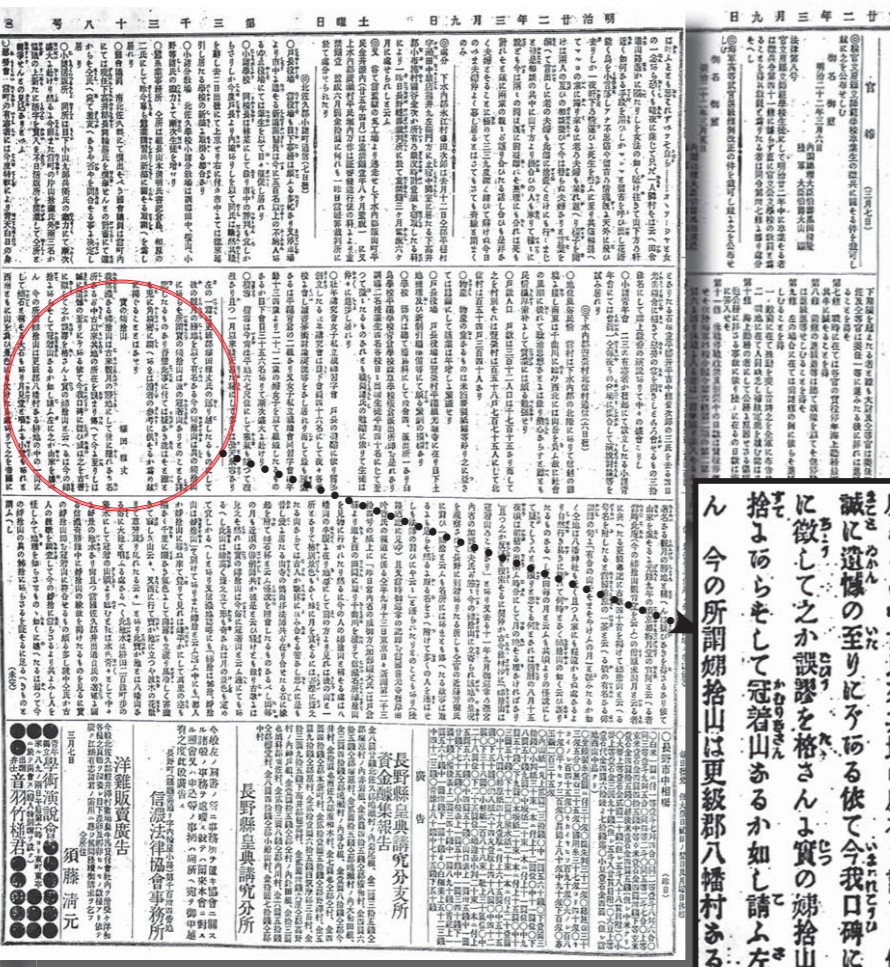
新聞に載った初代村長の「村おこし」投稿

▽執拗な論証

「実の姨捨山」の中で雅丈さんは、さまざまな証拠をもとに姨捨山としての冠着山を復権させようとしています。主張の要旨は、長楽寺一帯ではそもそも平地に近すぎて山と呼ぶには不自然にすぎることです。明治天皇が明治十一年(一八七九)に旧更級郡に巡幸した際には、従者

の高官が「長楽寺一帯は古人が歌を詠んだ場所とは思えない」という趣旨の発言をしたと紹介しています。「有台の山ですますや今日の月」と、そのにぎわいのすぎさ詠んだ一茶の句を引いて、当時の人たちの勘違いの様子を指摘しています。さらに雅丈さんは古来の和歌を引き、姨捨山はやはりちやんとどっしりとした山が詠み手にはイメージされていたことを明らかにします。一つの歌は「信濃なる富士とみゆるらん冠着の峰に一夜の月を見んとは」。これは平安時代末期の西行法師の作で、信濃の国の富士山とも言える冠着山の頂上で、名月を見てみたいものだという意味です。この場合の冠着は姨捨山と認識されていたことを示しています。

信濃毎日新聞



づる月影」。強い風が吹いた夜、更級の姨捨山の峰辺りから雲を掻き分け月が現れたという光景を詠んだものですが、これも姨捨山は冠着山と考えれば歌の意味が理解しやすくなります。執拗な論証の理由は裏返せば、それ

だけ姨捨山としての冠着山の存在が埋没してしまっていたからです。これは松尾芭蕉が一六八八年、長楽寺を訪れて「佛や姨ひとりなく月の友」の句を残したことが影響しています。「蕉風復興」運動の一環として加舎白雄が一七六九年、巨大な「面影塚」に刻んだことが大きなきっかけになって(シリーズBを参照)、全国の俳人が訪れる一大観光名所にもなっていたことが大きいと思われる。そのにぎわいはほんとにすごかったのだと思えます。そうでなければ、新聞にまで投稿はしなかったと思います。

雅丈さんは論文の最後に自ら作った二つの和歌を添えて投稿を締め上げた。左の一篇は更級郡塚田雅丈氏の送り越したるものにして彼の観月の勝地を以て有名なる今の姨捨山は其の姨捨山にあらも所謂實の姨捨山は彼の冠着山ありとこのことを詳記したるものあり吾輩此事に付ては疑ある能はずと雖も宛に角精密に調へるをは諸者の参考供に供するが爲め茲に掲ぐることはあせり

實の姨捨山

塚田 雅丈

我信濃ある姨捨山は古來觀月の勝地にして世に隠れあふ名所ある中古以來其地の所在を誤り傳へて今に至りしは誠に遺憾の至りに予ある依て今我口碑に從ひ或は之を古書に徴して之か誤謬を格さん實の姨捨山と云へるは今の姨捨山をあらわして冠着山あるか如し請ふ左に之が由来を述べ

めくくつています。時来れば空に覆ひし雲晴れて月影さとし姨捨の山 君が代に月の麓といふべきはこの更級の姨捨の山

雅丈さんの論文の最後に自ら作った二つの和歌を添えて投稿を締め上げた。左の一篇は更級郡塚田雅丈氏の送り越したるものにして彼の観月の勝地を以て有名なる今の姨捨山は其の姨捨山にあらも所謂實の姨捨山は彼の冠着山ありとこのことを詳記したるものあり吾輩此事に付ては疑ある能はずと雖も宛に角精密に調へるをは諸者の参考供に供するが爲め茲に掲ぐることはあせり

雅丈さんの論文の最後に自ら作った二つの和歌を添えて投稿を締め上げた。左の一篇は更級郡塚田雅丈氏の送り越したるものにして彼の観月の勝地を以て有名なる今の姨捨山は其の姨捨山にあらも所謂實の姨捨山は彼の冠着山ありとこのことを詳記したるものあり吾輩此事に付ては疑ある能はずと雖も宛に角精密に調へるをは諸者の参考供に供するが爲め茲に掲ぐることはあせり

雅丈さんの論文の最後に自ら作った二つの和歌を添えて投稿を締め上げた。左の一篇は更級郡塚田雅丈氏の送り越したるものにして彼の観月の勝地を以て有名なる今の姨捨山は其の姨捨山にあらも所謂實の姨捨山は彼の冠着山ありとこのことを詳記したるものあり吾輩此事に付ては疑ある能はずと雖も宛に角精密に調へるをは諸者の参考供に供するが爲め茲に掲ぐることはあせり

発行 二〇〇九年 四月五日
編集 さらしな堂 (代表・大谷善邦)
〒三八九・〇八一三
長野県千曲市大字若宮二一八四・六 (旧更級郡更級村)